



大型構造部材のオンサイト残留応力測定

非破壊、短時間、高感度でのオンサイト残留応力測定のご要望にお応えします。

オンサイト測定が可能なX線残留応力測定サービス『ストレスクイッカー®』の特長

- 測定時間 ・現地計測：Max.20ポイント/日(従来機種:8~10ポイント/日)
・試験室での計測：Max.40ポイント/日
- 測定対象 センサー部がコンパクト(長さ311mm×高さ154mm×幅124mm)なので、大型構造物は勿論のこと、隅肉溶接部など狭い部分へのアプローチが可能です。
- 測定精度 $\cos \alpha$ 法により最大125回折/ポイントでの多点測定が可能で、測定精度・信頼性を確保できます。
- 残留オーステナイトの測定が可能です。

X線による残留応力の測定原理

歪ゲージによる応力測定値との比較

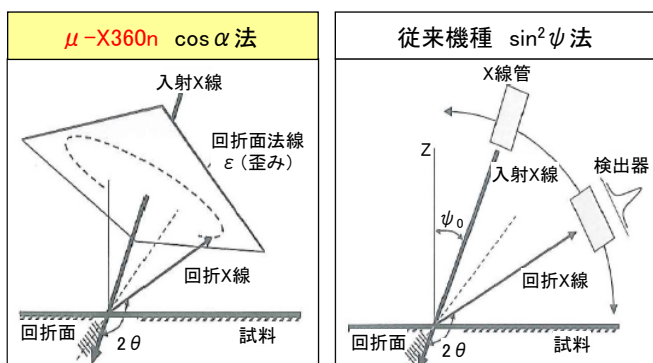


図1 X線による残留応力測定

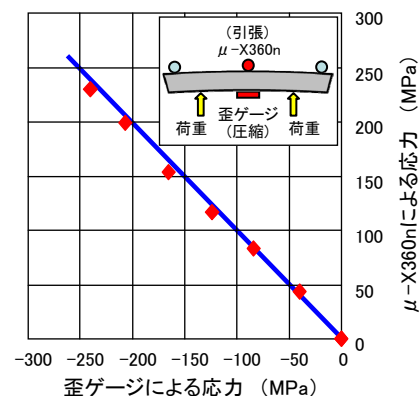


図2 4点曲げ試験結果(材質:S45C)

残留応力測定サービス『ストレスクイッカー®』の事例



写真1 溶接部の残留応力測定(塗装剥離後)

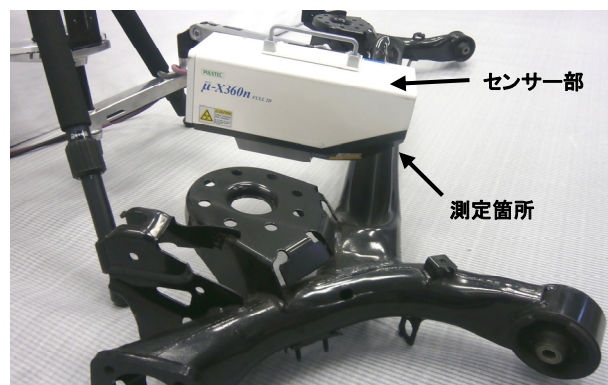


写真2 自動車部材の残留応力測定(塗装剥離後)

オンサイト残留応力測定サービス『ストレスクイッカー』は商標登録商品です。